

## 児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日: 2022年6月30日

回答数 指導員3人 放デイ:12人 児発:4人

事業所名: エファタ会館ことばの教室

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	① 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	とてもできている。(はいが100%) お子様の発達状況に合わせて、部屋を選択できる工夫をしている。	十分満足いただけている。 (はいが92%)	3㎡の指導室2部屋は個別指導に、大ホール34㎡は個別指導、集団指導に使用しておりスペースは十分である。
	② 職員の配置数や専門性は適切であるか	とてもできている。(はいが100%) お子様の発達状況に合わせて、部屋を選択できる工夫をしている。	十分満足いただけている。 (はいが100%)	指導員3人全員が常勤で言語聴覚士。かつ機能訓練士、保母の資格も持つ。各職員のスキル向上を目標とする。
	③ 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	とてもできている。(はいが100%) 建物全体がバリアフリー仕様。	満足いただけている。 (はいが67%)	保護者目線では配慮が適切でない点を、ヒアリングし改善していく。
業務改善	④ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	できている。(はいが67%) 各指導員の担当児・保護者に対する指導の振り返りを丁寧に行っている。	/	指導以外の業務についても、年々進化できるように目標設定と振り返りを行いたい。
	⑤ 保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向を把握し、業務改善につなげているか	どちらともいえない。(67%) 相談支援の場で保護者の不安や不満を吸い上げて解決に努力しているが、評価表等によるアンケートは導入したばかり。	/	2021年度は事業開始初年度のため、アンケートは初実施。この評価結果をもとに2022年度の業務改善を行っていく。
	⑥ この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	2021年分を初めてホームページで公開。	/	評価と公表の実施と県への届出が遅れたので、2022年度分は、3月にアンケート、4月に公表、5月に届出を行いたい。
	⑦ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	2021年度は事業開始初年度だったこともあり、実施したことがない。	/	今後は、5年後ごとに利用を検討する。
	⑧ 職員の資質の向上を行うための研修機会を確保しているか	できている。(はいが67%) ポータージの研修などに参加。スケジュールや予算不足で参加できない研修あり。	/	スケジュールの調整、予算の確保を行い、研修を通してスキルアップできる機会を増やしていきたい。
	⑨ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を作成しているか	とてもできている。(はいが100%)	十分満足いただけている。 (はいが92%)	言語発達の評価、語彙獲得能力の増大、構音障害の改善、文章理解能力の改善等、社会生活能力の改善のための計画を作成している。
	⑩ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	とてもできている。(はいが100%)	/	ソーシャルスキルトレーニング評価、TS式幼児・児童性格診断検査、WISC、WPPSIなどを実施している。今後も継続する。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
適切な支援の提供	⑪ 活動プログラムの立案をチームで行っているか	できている。(はいが67%) 個別指導は主に担当指導員が立案、集団指導はチームで立案している。		活動プログラムはすべて標準化されたアセスメントツールを用い、その結果をもとに立案している。今後も継続する。
	⑫ 活動プログラムが固定化しないような工夫がされているか	とてもできている。(はいが100%)	十分満足いただけている。 (はいが100%)	常に各種のアセスメントで評価し、管理責任者が活動プログラムの改善を促している。今後も継続する。
	⑬ 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	とてもできている。(はいが100%)		長期休暇中に総合学習を取り入れる工夫をしている。
	⑭ 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画を作成しているか	どちらともいえない。(67%)		集団活動は、コロナ禍で実施しにくかった。コロナの終息をみて、集団活動も適宜増やしたい。
	⑮ 支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援内容や役割分担についての確認をしているか	どちらともいえない。(100%) 毎日支援開始前には行っていないが、適時確認し合っている。		ケースによっては行っている。指導員は3人なので、必要な連携は、適時とれているので問題を感じていない。
	⑯ 支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点などの情報の共有化	どちらともいえない。(100%) 毎日支援終了後に必ず行っていないが、適時確認し合っている。		ケースによっては行っている。指導員は3人で、必要な連携は適時とれているので問題を感じていない。
	⑰ 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	とてもできている。(はいが100%)	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	必ず毎回の支援の時に指導内容や結果、今後の目標等を記録している。
	⑱ 定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直しを判断しているか	とてもできている。(はいが100%)		半年に1回以上、モニタリング(=見直し)を行い、サービス計画の見直しを判断している。保護者や他事業所の意見も聞いて対応している。
	⑲ ガイドライン総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っているか	とてもできている。(はいが100%)		
⑳ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議に子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか。	まあできている。(67%) 個別指導なので最も適任である担当の指導者が参画している。会議というより電話でのヒアリングが多い。		担当のお子様の成長を促すために、必要に応じて相談支援事業所などとの連携機会を大切にしていこう。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	⑳	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	どちらともいえない。(67%) 送迎を行っていない。		保護者を通して確認し、トラブルがあった場合は連絡を取っている。
	㉑	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	どちらともいえない。(67%) このようなお子様を支援していない。		手術の必要性等は、当所では判断できないため、保護者に医療機関に相談の上判断していただくよう伝えている。
	㉒	就学前に利用していた保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	とてもできている。(はいが100%)		就学後の指導内容などについて、問い合わせがあれば、情報共有している。
	㉓	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供するなどしているか	できている。(はいが100%) 実績としては1名のみ。		高卒以降の障害福祉への移行者があり、当所で報告書を作成し、提出した。今後も機会があれば協力する。
	㉔	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	どちらともいえない。(67%) 研修の機会はなかったが、こちらからお子さんの現状を伝えアドバイスを受けるなど連携している。		今後もお子様の発達を促すために必要に応じて連携をしていく。
	㉕	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会があるか	いいえ(100%)	いいえ(50%) 「個別のため必要ないと思う」というご意見があった	今のところ機会はない。
	㉖	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか。	どちらともいえない。(67%)		個別指導が主体なので、地域住民に個人情報が出ないことを優先し、特に公開行事は行っていない。
	㉗	支援の内容、利用者負担について丁寧な説明がなされたか	どちらともいえない。(67%)	説明がなされた(はい 100%)	職員はもっと丁寧な説明を行う必要を感じている。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
②	②⑨ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	とてもできている。(はいが100%)		普段の指導の中でポモドーロ法やピグマリオン効果法を示し、保護者の対応力の向上を図っている。
	②⑩ 日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について、共通理解ができているか	とてもできている。(はいが100%)	できている(はい 100%)	毎回の指導内容について報告し、保護者の不安や悩みを理解している。今後も継続する。
	②⑪ 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	とてもできている。(はいが100%) 事業所内相談支援、電話での支援など。	行われている(はい 100%)	来館児の保護者が現在何に悩んだり不安を感じているのか、十分聴取している。今後も継続する。
	②⑫ 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催により保護者同士の連携が支援されているか	どちらもいえない。(67%) 以前は実施していたが、コロナでここ数年実施できていない。	はい(34%) どちらもいえない(50%)	少人数の集まりの中で対応しているが大人数での保護者会等は、まだ開催しにくい。
	②⑬ 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	どちらもいえない。(67%) 苦情処理窓口は準備しているが、未だに苦情は届いていない。	はい(75%)	苦情への対応体制について、子どもや保護者へ周知する必要がある。
	②⑭ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	どちらもいえない。(100%) 定期的に発信していない。	はい(34%) どちらもいえない(66%)	主な連絡手段がガラケー携帯電話とSMSで不便なので、スマホ・LINEを導入し、定期的な発信を試みたい。
	②⑮ 個人情報に十分に注意しているか	注意している。(はい 100%) 第三者に氏名を公表しないなど気を付けている。	はい(80%)	個人情報の取扱について職員のリテラシーを向上するため、研修を導入したい。
	②⑯ 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	配慮している。(はい 100%) ダウン症、自閉症、聴覚障害、構音障害、知的障害などのお子さんがあります。	配慮している(はい 100%)	難聴のある保護者へは時間を割く、文書化するなどの配慮を行っている。
③	③⑦ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	どちらもいえない。(100%) 当所内で起きうる事故を保護者に周知しているが、マニュアルが未作成。	はい(40%) どちらもいえない(60%)	マニュアルとして文書化し、職員や保護者とも共有する。
	③⑧ 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	どちらもいえない。(100%) 定期的な訓練は実施したことがないが、個別に火災の誘導灯について知らせている。	はい(30%) どちらもいえない(50%)	万が一指導中に災害が起きたときにお子様や保護者様の安全を守るためにはどう動いたらいいか、各職員がシミュレーションしておく。職員同士も連携できるようにする。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	③⑨ 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	どちらともいえない。(100%) 虐待を行うことは考えられない環境のため、特に研修も行っていなかった。		実際にどのような「虐待」の事例があるのかは、知っておくことは大切である。
	④⑩ どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に記載しているか	どちらともいえない。(100%) そもそも、指導対象のお子さんは、身体的拘束を行う必要がない。		今後もいわゆる「身体的拘束」は行わないが、部屋から飛び出すお子さんを抱きかかえたり手を掴んだりする場面があることを保護者に予めお伝えしていく。
	④⑪ 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	とてもできている。(はいが100%)		今後も、必ずアレルギーの有無を確認した上で、強化子としての煎餅等は成分上問題のないものを使うことを徹底する。
	④⑫ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内での共有できているか	どちらともいえない。(67%) 職員には注意を促し、実習生等には起こりうる事例を伝えているが、「事例集」の形で文書化はできていない。		今後、ヒヤリハットの事例を文書化して職員や年に数人来る実習生に共有する。
満足度	④⑬ 子どもは通所を楽しみにしているか		楽しみにしている(はい84%、いいえ0%) どちらともいえない(16%)	「どちらでもない」のお子様についても、理由を考察し、「はい」とお答えいただけるよう取り組んでまいります。
	④⑭ 事業所の支援に満足しているか		満足いただけている(はいが100%)	一層ご満足いただけるように精進いたします。